

理学療法標準評価 使用ガイド

I. 主要項目

1. 基礎動作評価

採点時の注意点 : 1) 寝返り 2) 起き上がり 3) 30 秒以上の座位保持 4) 立ち上がり
<ul style="list-style-type: none"> * 「普通にしている」とは健常者と同じ方法、同じ時間内で安定して日常的にしている場合(している ADL) * 「普通にできる」とは健常者と同じ方法、同じ時間内で安定してできる能力を持っているが日常的には行っていない場合(できる ADL) * 「異常な方法」とは健常者とは異なる方法(上肢の使用、過剰な代償や環境設定を含む)で動作を行うことを指す
「能力以外の減点理由」記載時の注意点
<ul style="list-style-type: none"> * 運動能力があるにもかかわらず点数が減点される場合、その理由を下記から選択する <p>選択肢 : a. 痛み b. 医師の指示(禁忌) c. 疲労(心肺機能) d. その他(例:高次脳機能障害、認知症、精神機能など)</p>
1) 寝返り(左右に関しては困難度の高い方向について評価)
<ul style="list-style-type: none"> * 上欄の「採点時の注意点」、および「能力以外の減点理由」記載時の注意点を参照 * 日常的な「している/できる」と動作の質を評価する * ベッド柵等を使う場合や過剰な代償、環境設定を要する場合は「異常な方法」となる
2) 起き上がり
<ul style="list-style-type: none"> * 上欄の「採点時の注意点」、および「能力以外の減点理由」記載時の注意点を参照 * 日常的な「している/できる」と動作の質を評価する * ベッド柵等を使う場合や過剰な代償、環境設定を要する場合は「異常な方法」となる
3) 30 秒以上の座位保持(端座位)
<ul style="list-style-type: none"> * 上欄の「採点時の注意点」、および「能力以外の減点理由」記載時の注意点を参照 * 日常的な「している/できる」と動作の質を評価する * ベッド柵等を使う場合や過剰な代償、環境設定を要する場合は「異常な方法」となる
4) 立ち上がり
<ul style="list-style-type: none"> * 上欄の「採点時の注意点」、および「能力以外の減点理由」記載時の注意点を参照 * 日常的な「している/できる」と動作の質を評価する * ベッド柵等を使う場合や過剰な代償、環境設定を要する場合は「異常な方法」となる
5) 立位バランス(床へのリーチ)
<ul style="list-style-type: none"> * 自然に立った状態で測定する * 膝を屈伸させても構わない * 立位保持が自立していない場合の評点は「0」とする
6) 立位バランス(タンデム肢位)
<ul style="list-style-type: none"> * 立位保持が自立していない場合の評点は「0」とする

2. 歩行評価

7) 歩行の自立度
<ul style="list-style-type: none"> * この評価は「している ADL」で評価する * 歩行補助具の使用は可能 * 使用した補助具を下記から選択する(複数可) 選択肢 : T字杖・4点杖・松葉杖・装具・歩行器・その他 * 点滴棒に掴まっての移動、手すり把持等の場合には“その他”を選択する
「能力以外の減点理由」記載時の注意点
<ul style="list-style-type: none"> * 運動能力があるにもかかわらず点数が減点される場合、その理由を下記から選択する 選択肢 : a. 痛み b. 医師の指示(禁忌) c. 疲労(心肺機能) d. その他(例:高次脳機能障害、認知症、精神機能など)
8) 歩行速度
<ul style="list-style-type: none"> * この評価は「できる ADL」で評価する * 快適歩行速度での 10m もしくは 5m 歩行テスト、杖、装具を用いても良い (使用した補助具を項目 7 の補助具選択肢より選択。ただし、歩行器・シルバーカーは使用不可) * 歩行テストが行えない環境の場合、速度の見積もりで記入し、「概算」に○をつける
「能力以外の減点理由」記載時の注意点
<ul style="list-style-type: none"> * 運動能力があるにもかかわらず点数が減点される場合、その理由を下記から選択する 選択肢 : a. 痛み b. 医師の指示(禁忌) c. 疲労(心肺機能) d. その他(例:高次脳機能障害、認知症、精神機能など)
9) 階段
<ul style="list-style-type: none"> * この評価は「している ADL」で評価する * 装具を用いてもよいが、杖は用いない * 昇段、降段ともに満たしている評点をつける
「能力以外の減点理由」記載時の注意点
<ul style="list-style-type: none"> * 運動能力があるにもかかわらず点数が減点される場合、その理由を下記から選択する 選択肢 : a. 痛み b. 医師の指示(禁忌) c. 疲労(心肺機能) d. その他(例:高次脳機能障害、認知症、精神機能など)
10-1) 跛行
<ul style="list-style-type: none"> * この評価は「できる ADL」で評価する * 10m もしくは 5m 歩行テストの中で評価。杖、装具、歩行器を用いても良い * 理学療法士として正常歩行との違い(先天異常、加齢などの要素による異常も含む)がみられる場合は逸脱とみなす
10-2) 正常歩行からの逸脱
<ul style="list-style-type: none"> * 正常歩行からの逸脱がみられる場合に評点をつける * 認められる歩容すべてに○をつける(複数回答可)

3. 上肢評価

11) 日常生活動作における対象物の操作
<ul style="list-style-type: none"> * 歩行(移動)を伴わない食事、整容動作、更衣動作のうち、もっとも障害されていると考えられる動作を選択し、評価の対象動作とする(どれも同程度の場合はどの動作を選んでも構わない) * 前記3つの動作に問題所見がみられない場合は、「その他()」に動作名(歩行・入浴・排泄等)を記入する * 「しているADL」で評価する * 選択した課題動作について、どれか1つだけに○をつける
「能力以外の減点理由」記載時の注意点
<ul style="list-style-type: none"> * 運動能力があるにもかかわらず点数が減点される場合、その理由を下記から選択する <p>選択肢： a. 痛み b. 医師の指示(禁忌) c. 疲労(心肺機能) d. その他(例:高次脳機能障害、認知症、精神機能など)</p>
12) 対象物(動作)の操作頻度
<ul style="list-style-type: none"> * 項目 11 で選択した動作について、日常生活における使用頻度を評価する * 両側障害されている場合は健常者と比較した頻度として評価する

II. 副次項目

4. 筋力(Impairments)

13) 筋力評価(重症側のみ評価)
<ul style="list-style-type: none"> * 重症側がない場合どちらでもよい * 筋力基準 <ul style="list-style-type: none"> 3：普通(健常者と同等の十分な筋力がある)；MMT5相当 2：重力に勝てるが健側(もしくは健常者)より弱い；MMT4～3相当 1：目に見えて動くが、重力に勝てない；MMT2相当 0：動きなし；MMT1～0相当

5. 疼痛(Impairments)

14-1) 疼痛評価(疼痛の理由は問わない 例:術後の痛み、筋膜炎疼痛等)
<ul style="list-style-type: none"> * 安静時痛と動作時痛のそれぞれについて評価する * 疼痛基準 <ul style="list-style-type: none"> 2：痛みなし 1：痛みを自覚するが、耐えられないほどではない 0：耐え難い痛みを感じる * 安静時痛については、疼痛が出現する姿勢、および時間帯を選択する(複数回答可) * 運動時痛については、疼痛が出現する運動を選択する(複数回答可)
14-2) 痛みの治療(薬物療法)の有無
<ul style="list-style-type: none"> * 内服薬・注射薬・外用薬は問わない

6. 移動範囲(Participation Restriction)

15) 移動範囲評価(発症後、もしくは直近4週間で評価)
<ul style="list-style-type: none"> * 屋内・屋外移動のそれぞれについて評価する <ul style="list-style-type: none"> 1)居室(病室、自室)以外への建物内の移動(屋内移動)状況 2)居室(病院、施設、自宅)外への移動(屋外移動)状況 * いずれも、「移動の有無×移動の頻度×介助の有無」の各点数の積として、合計スコアを算出する * 病院内の移動、または病院外への外出許可が、医師から出ていない場合は0点とする * 「評価不能・不明」の場合は、「合計点」の欄に、「X」と記入する

7. 活動意欲(Personal Factor)

16) 活動への意欲の評価

* 普段の日常生活の活動・運動に対する意欲を評価する

8. 環境評価(Environment Factor)

採点時の注意点

* 自宅環境あるいは退院後の生活の場(施設を含む)を想定して評価する

* 自宅環境の情報が得られない場合は、“不明”に○をつけて、8. 環境評価は評点をつけなくて良い